

父兄に對する希望

如 柳 子

(12) 趣味を高尚にせよ

何事も令するところに従はずして好むところに従ふは一の眞理である。されば父兄としては高尚な趣味を持つて欲しい。運動會のあるときなどに、父兄は物見遊山と心得て、辨當や正宗の瓶を麗々しく提げて行くものがある。之を俗悪といふので嫌ふべきことである。高尚な趣味を持つて近道は自然を愛することである。これは尤も金がかゝらぬことである。親が芝居藝者や飲食衣服や、見せものなど、劣れるもののが好きで、年中眞の見聞を披露して居るやうでは其の子供の品格がよくなれば、子供は此等の話は丸で止める譯にゆかぬとすれば、子供の聞かぬ場合にすることがよい。之に反して、山水風景、草木花鳥、美術品繪畫の類、讀書などいふやうな趣味の父兄にあれば、子供の趣味も自然高尚になるのである。

(13) 一家歩調を一にせよ

十

父親母親兄弟等凡て一家に起居するものは其の子供の教育に就ては歩調を一にせねばならぬ。父のいふこと、母のいふこと、違つて居り、兄のいふことを姉が批難するやうであると、子供は一番自慾に適するところに依頼して結局陰日向の行をすゝる、勿論虚言をいふやうにもなる。そこで一家の人は一ト口にいふグルにならねばならぬ。即ち歩調を一にせねばならぬ。父母兄弟のいふところ一致するに至つて、子供は信念を強くし、隨て感化されるのである。これは何でもなきとの様で随分大切な箇條である。一家のものが互に相批難し會ふやうでは子供の眞の教育は出來ないのである。

14 學校及び教師を貴べ

子供の最も信頼するものはいふまでもなく親である。尤も恐るゝものは先生である。然るに子供の信頼する親が學校のことをよくいはぬ、先生のことを悪くいふやうでは如何であるか、先生の前では頭を下げて、除く學校の悪口や先生の悪口をいふ、信頼する親の言ふことであるから子供は之

を眞に受けて、學校をそれ程有難く思はぬ、中には子供の言を取り上げ、親がある。人の親の心は闇にあらねども、子を思ふ道に迷ひぬるかなで、子供にひいきして、子供を引き倒すといふことになる。されば親からして一層學校や先生に信賴し、之を貴んで見せれば子供は無論その風に感化されるものである。

15) 祖父母に任せるな

昔から祖母の子は三百安いといふが、實際子女教育の中心は兩親にゐるので、祖父母は自己のよる年波の精神上身体上の老衰から、子供を終に甘やかす様になる、寒くなる祖父母自身が餘計に寒さを感じずる。そこで孫も寒からうといつて祖父母と同じやうに厚着をさせる、すると子供は大迷惑である、活動心の満ちた子供は少し位衣服が薄くても何とも思はぬ。然るに老人と同じにされるといふので意氣地がなくなる譯である。されば祖父母に任すといふは、大概の場合に於て考へものである、世間には祖父母に權力があつて、若い夫婦に手は出させぬといふところも少くある

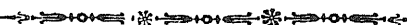
まい。併し我が子の教育は我が親でなければ理窟に合はない。此の點は如何に祖父母が權力があつても、任かせてはならぬことである。

16) 子供の自動心を利用せよ

これは少しよろしい方の家庭に就て注文する。即ち子供に何事もさせぬ、手を下させぬといふことを止めるのである。成る丈け子供に用事をさせるのである。勞働神聖といふことを知らしめるのである。如何に手があつても足があつても、子供に自動せしめぬときは、其の極、精神上にも依賴心を起さしむる様になる。私の學校では良家の子女が多いのであるから、久しき以前から此の自動心の貧富高下によることではない、おしなべて子供に自動せしむる教育上の必要があるのでありますから、手のあるところでも、出来るだけは子供を働かせることを認めねばなりません。

17) 復習の奨励

これは誰も解つて居ることであらうが、復習をうるさいとか邪魔とかいうて止めるに至つては沙汰



の限りである。成程或る場合にはさういふこともないとも限らぬ。併し無理にも復習時間を與へぬのは可愛想である。今日の學校は以前より容易になつた代りには色々の學科がふえて居る。爲めに學校で復習する時間といふのが殆どない。復習は是非家庭でやらねばならぬ。今日の兩親の中には明治二十年以後の教育を受けて居るものがある、即ち尋常高等といふ多少小學校組織の教育を受け居るものがある。兄や姉に至つては殆ど今と違ひのない教育を受けて居る。假名文字位の讀めぬものはない筈である。親が文字を知らぬから復習させることが出来ぬといふのは最早夢になつた様である。凡べての學科に就ていなくも重要な二三學科の復習は是非家庭でさせて貰ひたいものである。

(18) 通信簿のこと

通信簿は其の名の示すとほり學校では一々點檢する譯であるが、父兄の方も勿論一覽する必要がある。然るに之に捺印して一覽したる證據となす手續を怠るものが、私の學校にもある、一二人なれば

稀に忘れたものと解しても宜しいが比較的多くあるのは宜しくない、子弟の成績を氣にせぬものはないから、必ず一覽するであらうがツヒ忘れるのであるかも知らぬが、是は私の學校の話で、一般の學校は如何であるか、丸で見ないで其の儘學校へよこすものがあはしなないか、子供の成績はどの位出来て居るのか、又以前に比してよいのか下がつたのか少しも解らぬといふは、不熱心である子供は此の成績の通知などに頗る興味を持つて居る。親は子の出来榮を樂しみにして、前よりよければ褒める様にする、さすれば通信簿は眞の働きをするのである。これが取柄は一層丁寧に貰ひたいものである。

(19) 成績を見てやること

學校で書いた圖畫習字、拵へた手工裁縫の點將た作文などは、常に子供が親に見せ、又親が進んで見るやうにしたいものである。それは一分か二分の時間しか費さなくも、子供は非常に振合になるもので、親の喜ぶ顔を見たい爲めに自然學校で勉強する。之に反して、一向何が出来たか分らぬ様

にすれば、學校で書くにも作るにも氣が乗らぬ、中には子供の不整理で失ひ又は無暗に道具や紙ばかり請求するものもあらう。併しこれは今の成績に注意するといふことで大分改めることが出来ると思ふ。

(20) 衛生の一斑

學校は多數の人の集合所である、不潔は尤も厭ふべきことで、不潔を防ぐ近道は度々入浴せしむることである。勿論冷水摩擦でもよいが、小學生徒にはチト無理な注文かも知れぬ、併し小供の入浴俵髪質などは山櫻一箱の代にも當らぬ、酒一合に當らぬ、買ひ喰ひ無駄遣ひを一切省いたなら毎日でなくとも隔日位に入浴させることが出来やうこれに次で爪、耳、鼻等の掃除を怠らぬやうにしたい、女兒などが奇麗に化粧して爪が長かつたり耳の中の黒いなどは屢々見受ける、斯かる點に注意して貰ひたいものである。衣服飲食物のことなどは別段言はぬがこれは注意して欲しい。次に運動させるといふことも必要であるが、運動といふて何も散歩する意味ではない、家の内外の拭掃

除の類でよろしい、運動といへば外に出ると心得るは間違ひで、家の身分に應じて勞働せしむることも運動になる、結局何をしても身体を動かせばよいので、これが爲めに金錢を費すは面白くない要するに今日は義務教育であつて家に不學の徒がなくなる様になつて居るから、父兄方の考も一歩進んだらうと思はれる。但し父兄會などへ出席する方が一層多くなり、學校のことなれば躍起となつて一ト肌脱いで貰ひたい、彼のお祭り騒動を見るのに、恰も狂せんばかりである。併しこれが子供の將來の爲めにどれ程の働があるか。此の狂せんばかりの熱心を學校の方に向けて貰ひたい。私の區は學校の自慢でございませといつた英國の或る寒村の例に倣ふやうにしたい。

